

TWC インターンシップ・プログラム参加報告

(期間：2018年8月29日～12月8日)

Participation Report of the TWC Internship Program (Aug. 29-Dec. 8, 2018)

文学部教育学科人間発達専攻 4年 平野 一希

Hirano, Kazuki

Senior, Human Development Course, Department of Education, Faculty of Letters

2018年8月29日から12月8日の期間に、アメリカの首都、ワシントン DCにある The Washington Center (以下「TWC」) 主催のインターンシップ・プログラムに参加してきました。光栄にも世界的に著名なこのインターンシップ・プログラムに参加することができたことに感謝しつつ、参加理由、選考プロセス、TWC、そしてインターンシップについて概要を報告します。

1. プログラムの参加理由

このプログラムへの参加を決めたのは、大学3年の2月頃でした。その時期は、大学最後の年をどのように過ごそうかと悩んでいる時期でした。そんな時に、東洋大学の国際関係のホームページに掲載されていた熊澤亜未さんのプログラム体験談を拝見し、私も新しいことに挑戦し、自分自身を成長させ、社会でグローバルに活躍できる人間になりたいと思い、このプログラムに興味を抱きました。当初、周囲の友人からはアメリカで働くわけではないのになぜといったことや、なぜ就職活動が終わった今インターンシップをするのかと疑問を持たれましたが、学生の時期にしかできない特別なことをしたいという強い思いが自分の中にありました。また、私は大学3年時にオーストラリアの協定校に留学し、英語を勉強することができましたが、英語を使いながら学んだり、働いたりしたことがなかったため、アメリカの首都のワシントン DCで、文化や知識を学び、アメリカ人や世界から集まった多様な背景を持つ人たちとの交流を通して貴重な経験をしたいと思い、このプログラムに応募しました。

2. 選考プロセス

本プログラムに応募するには、初めに東洋大学での学内選考があり、自分の長所や大学で何をしてきたのかということを書いたカバーレター、語学スコア (TOEFL ITP)、英語で書いたレジュメと大学での成績 (GPA) によって審査されます。学内選考を通過した後、TWC からの選考に移ります。ここでは、英語でのレジュメ、自分の興味について書く **Statement of Professional Interest** (英語 100 語)、自分の専門の興味や知識について書く **Issues Essay** (英語 500 語)、大学での成績 (GPA など)、推薦書 2 通 (大学に関連する方と大学に関連していない社会人の方の各 1 名ずつという決まりがある)、TOEFL のスコア (ITP550 点程度は必要)、TWC 担当者とのスカイプ面接などを経て、選考されます。

そして、最後にアメリカでのインターンシップ先とのスカイプ面接があります。面接の内容としては、自分の学問の分野や興味やインターンシップでどのように貢献できるかといったことについて受け答えをしました。もちろん全て英語での面接で、会社の説明もあり、自分の長所と短所を伝えたりもしました。その後、会社からオファー・レターというものが届いたら、インターンシップ先が決定するという流れになっています。これらのすべての選考を経て、プログラムへの参加が漸く決定しました。

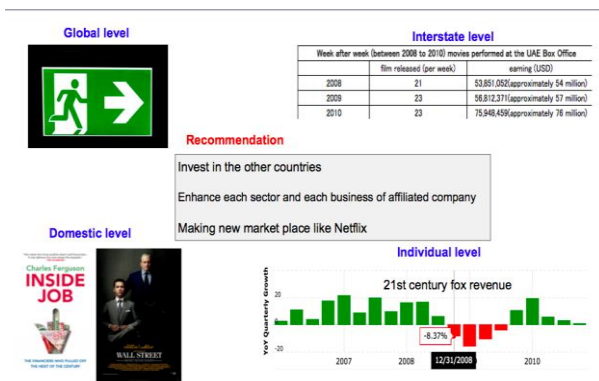
私は、TWC の選考へ向けての準備と就職活動を並行して進めていて、卒業論文も TWC プログラムに参加するために、出発前のその時期に行っていたことが、自分自身の中で一番大変な部分でした。

3. TWC について

The Washington Center プログラムは、様々な国々の人々が、アメリカのワシントン DC にある企業でのインターンシップを目的に参加するプログラムです。参加者は学生だけに限らず、大学院生や社会人の人もいて、アメリカを中心とした 20 カ国以上の国々から集まっています。参加者は、NOMA という寮からインターンシップ先に毎日通勤し、寮の中には授業の教室として使われている部屋やジムなどもあります。すべての部屋が 4 人 1 部屋となっていて、アメリカ人 2 人とアルゼンチン人 1 人のルームメイトと共同生活をしていました。

また、夜間には週に1回3時間の授業があり、授業の種類としては International Business、Entrepreneurship、Political Science などの様々な授業があります。プログラムの参加前に自分の好きな授業を選択し、受講するようになっています。私は International Business を受講して、主に海外との貿易を学び、授業の最後には必ずワークショップををするといった積極性を重視する授業でした。担当講師は、DHL という国際輸送物流会社の Vice President をしている Mr. Eugene Laney という方でした。また、授業は授業態度、レポートと最後の授業で行われる10分間で1枚のスライドしか使うことができないプレゼンテーションによって評価されました。

そして、毎週金曜日には Career Professional Development を目的とした LEAD という授業もありました。この授業にはクラスがあつて担当講師もいて、グループディスカッションやグループワークをしながらお互いの強みや自分の強みを探し、将来どんな仕事に向いているのかということを知り、キャリアについて考えるという授業でした。この授業での課題で Washington DC で働いている2人の方にインタビューをして、そのインタビュー内容をレポートにまとめるというものがありません。私は Washington DC で働いている日本人の方にインタビューをしたいと思い、自分が4月から就職する会社のアメリカ支社で働いている方と国際協力機構 (JICA) のアメリカ事務所の次長の方にお話を聞くことができました。



授業で用いたプレゼンテーション



ルームメイト達と

1 週間のスケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
Day time	インターン	インターン	インターン	インターン	授業*	OFF	OFF
Night		授業*					

授業*... LEAD の授業 (1 時間半) 授業*...International Business (3 時間)

TWC のイベントも多く行われています。ホワイトハウスツアーやアメリカ議会のツアー、ホロコースト・ミュージアムのツアーなどのアメリカの歴史や文化を体験するもの、ゲスト・スピーカーを招いてのパネルディスカッション、TWC の OB や OG の方達とお話をし、コネクションを広げるイベントなど多岐にわたります。また、自国の文化を他国の人々に披露するグローバル・フェスティバルというイベントもありました。



グローバル・フェスティバルにて



ホワイトハウスでボーリング

4. インターンシップについて

ここでは、私が働いていたオフィスを紹介します。



これは 1776 というオフィスで、ベンチャー企業が数多くあるシェアオフィスで、オバマ前大統領も一度訪れたことがあります¹⁾。ここでは、起業家達によるパネルディスカッションも多く行われていて、アメリカの Washington DC では有名なオフィスです。

私のインターンシップ先は PrepFactory という教育系のベンチャー企業で、アメリカ人の上司とメキシコ人の同じインターン生と一緒に働いていました。アメリカには大学に入るための ACT と SAT というテストがあり、PrepFactory はそれらのテスト成績を向上させるためのサイトを商品としている会社です。私がインターンシップ先でしていたことは、主にマーケティング・リサーチ、商品(サイト)の改善、融資先を探す手伝いなどです。マーケティング・リサーチでは、州によってどっちのテストを使っているのかということ調べ、学校のサイトに PrepFactory のサイトが載っているかの確認作業、Washington DC 付近の塾について調査することやユーザーにメールを送り、反応を観察することなどをしました。商品 (サイト) の改善では、サイトのバグを探し、商品がよりユーザーに使われるようにどのような工夫をすべきなのかということのパワーポイントで上司に説明しました。融資先を探す手伝いでは、数多くある投資家達の中でどの投資家にコンタクトを取るかの優先順位を理論立てて考えました。

働き始めた当初、何もわからないという状態でした。ビジネス英語も学んだ経験がなく、わからないことがあったら即座に聞くということが上司から課せられたルールでしたが、質問するのをためらうという癖がついてしまっていました。また、ベンチャー企

1) <https://obamawhitehouse.archives.gov/blog/2014/07/03/president-obama-visits-1776-incubator-all-sorts-tech-startups>

業であるため会社のビジネスモデルがすぐに変わったりするスピードに自分の理解を追いつかせることに苦労しました。

しかし、このままでは何も成長しないと考え、何事にも積極的になることを決意しました。わからないことがあれば、会話の途中であっても質問するように心がけました。そのお陰でたくさんの成果を得ました。プレゼンテーション・スキル、エクセルの使用スキル、起業するときの知識、メールを打つときのコツ、アメリカのビジネス・スタイルなどを知ることができました。私の上司は、私によくこの2つの言葉を伝えていました。「もし自分が辛いと思っている時は成長しているということだ」、「自信がなさすぎる人より、自信がありすぎる人の方が断然良い」というものです。これから社会人になり働くときに、この言葉を胸に日々精進していこうと思っています。

5. インターンシップを終えて

このインターンシップ・プログラムにおいて様々な困難がありました。授業では、アメリカの学生やカナダの学生などネイティブの学生と同等に講義内容について話し合ったり、ワークショップを行ったりしながら、教授の評価を受けなければなりません。また、インターンシップでは、働く上での言葉の壁を目の当たりにしたり、自分の仕事をする上での知識の無さに落胆したりもしました。しかし、それらの悔しさが自分を成長させてくれたと思っています。また、他の国の多くの友人ができたことやアメリカの文化を学べたということもこのプログラムで得た大きな財産です。アメリカの議会でインターンをしていた友人のお陰で、第41代大統領を務めたジョージ・H・W・ブッシュ元大統領の国葬を見学できたということは忘れることのない思い出になりました。このインターンシップ・プログラムを通して、もっと世界で活躍したいという思いを強くすることができたと確信しています。

